

潮見小のイトスギの旅路～潮見小からイタリアへ、平和の種を届けて～

潮見小学校のふたつのシンボル

松山市立潮見小学校には、ふたつの象徴的な存在があります。ひとつは、目の見えない犬「ダンちゃん」の銅像。もうひとつは、校舎4階を優に超える高さを誇るイトスギの木で、おそらく全国でも有数の高さではないかと思われます。

ダンちゃんは、もともと捨てられていた子犬でしたが、潮見小の子どもたちや地域の方々の温かい思いやりに支えられ、学校で幸せに暮らしました。

もうひとつのシンボルであるイトスギは、イタリア・ソルフェリーノの丘から運ばれたもので、1963年に潮見小学校に届きました。ダンちゃんよりもずっと前から、学校とともに歩んできた存在です。

写真①ダン



写真②イトスギ



紙芝居づくりと学びの時間（2022年）

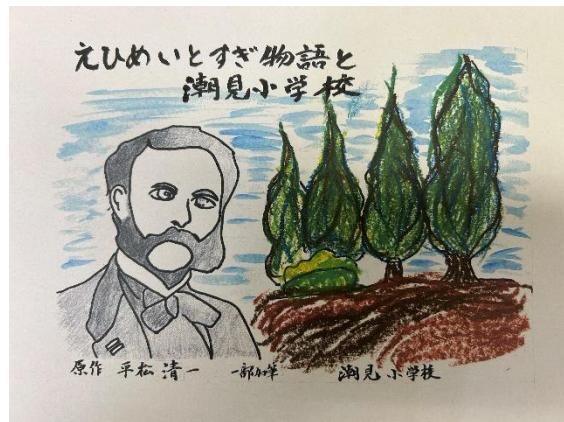
2022年、潮見小学校の青少年赤十字（JRC）委員会は、イトスギとアンリ・デュナンのつながり、そしてソルフェリーノから届けられた「平和」と「思いやり」のメッセージを伝えるため、手作りの紙芝居を制作しました。

制作に先立ち、潮見小のイトスギをよく知る平松清一先生、鎌田サチ子先生、濱本昇先生をお招きし、ソルフェリーノの戦いやイトスギに込められた平和への願いについて、JRC委員の子どもたちが直接お話を伺う貴重な機会をいただきました。

写真③平松先生来校



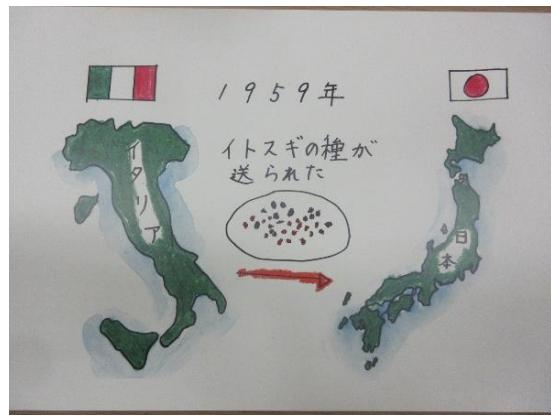
写真④—1 イトスギ紙芝居



写真④—2



写真④—3



チャイルドツリー調査とマップ作成（2023年）

紙芝居づくりを通して、JRC委員の子どもたちは、イトスギやその子孫についてもっと知りたいという思いを強くしました。そこで、日本赤十字社愛媛県支部の協力を得て、潮見小のイトスギから生まれた苗木が配布された松山市内41校にアンケートを依頼し、「チャイルドツリー」の現状を調査しました。

各校から寄せられたイトスギの高さや写真をもとに、子どもたちは「チャイルドツリーマップ」を作成。また、調査結果をまとめた報告書とともに、各校のイトスギをモチーフにしたキャラクターを心を込めて描き、マザーツリーを持つ潮見小学校JRC委員会から感謝の気持ちを込めて贈りました。

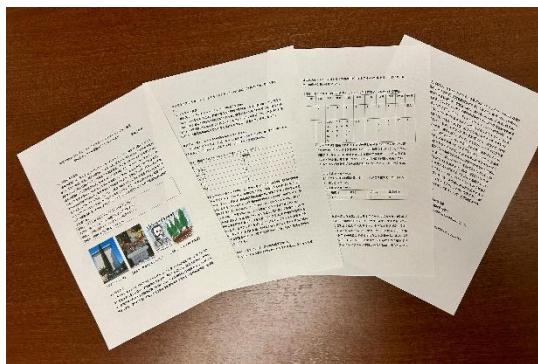
写真⑤—1 チャイルドツリーマップ



写真⑤—2



写真⑥—1 報告書



写真⑥—2 チャイルドツリーキャラクター



イタリアへの感謝の気持ちを込めて（2024年）

2024年、潮見小学校は創立150周年を迎えました。JRC委員会では、前年に市内の学校との絆を深めたことを受け、今度は60年前にイトスギを贈ってくれたイタリア赤十字社へ感謝の気持ちを伝えたいと考えました。

そこで、日本語版の紙芝居を動画にし、英語訳を添えて送ることにしました。さらに、報告書や子どもたちのメッセージも英語とイタリア語で用意し、活動の様子を伝えました。

また、JRC委員会では3年間にわたり、種から育てたコスモスを全校に配布し、学校を彩ってきました。毎年、ダンちゃんの命日にはその花を供え、イトスギの周りにもコスモスを植えて、イトスギがひとりぼっちにならないようにとの思いを込めています。

その様子を撮影した写真も、イタリアへの贈り物に添えました。

植物検疫所に相談し、必要な手続きを経て、JRC 委員会が育てたコスモスの種もイタリアへ送付しました。イタリア赤十字社のサラさんからは、「無事に届きました！みなさんのイトスギの紙芝居はとても興味深いです！」という写真付きのお礼のメールが届きました。

60 年前にイタリアから贈られたイトスギを、今も平和とやさしさの象徴として大切に育てていることを知っていただけたことを、私たちはとても嬉しく思いました。そして、60 年の時を経て、今度は子どもたちが育てたコスモスの種をイタリアへ届けることができたことは、150 周年にふさわしい、心に残る活動となりました。ちょうどその年は、イタリア赤十字社の 160 周年でもあったそうです。国や時代を越えて、小さな思いやりが世界の平和へつながることを教えてくれたイトスギ。この木を、これからもみんなで大切に守り育てていきたいと思います。

写真⑦—1 イタリアへ送った手紙 写真⑦—2 イタリアへ送った手紙



写真⑦—3 イタリアへ送った手紙

写真⑦—4 イタリアへ送ったコスモスの種



写真⑧—1 英語字幕イトスギ紙芝居



写真⑧—2

写真⑨イタリア赤十字社サラさんたち

